

受難節黙想・主イエスの十字架の道をたどる

◎ここに掲載するのは、「ゲツセマネの祈り」から「主イエスの埋葬」までを14の御言葉でたどるものです。受難節の期間、毎日主の歩みを追って14の御言葉を思い巡らすことが出来れば素晴らしいですし、1日に1ずつじっくり読むのもおすすめです。主の十字架がすべての人のための、そしてこの私のための出来事であるとわからせて頂けるように、聖霊の照らしを求めつつ、御言葉を読み続けましょう。

<p>1 イエス、ゲツセマネの園で祈る</p> <p>マタイの福音書 26章 36～41節 「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」(39)</p> <p>神よ 主イエスがあなたのご計画を信じ 十字架に向けて歩み始める決意を祈りの内に固めています。どうか私にも あなたを信じる信仰を増し加えてください。肉の弱さに負けて眠り込んでしまわぬように助けてください。</p>	<p>2 イエス、ユダに裏切られ、逮捕される</p> <p>マルコの福音書 14章 43～46節 「ユダはやってくるやすぐに、イエスに近寄り、『先生』と言って接吻した。人々は、イエスに手をかけて捉えた。」(45,46)</p> <p>神よ 接吻という、美しい親愛の行為さえ人を裏切る手段としてしまう罪が示されています。この罪が他人事でないと心深くに悟らせてください。そして主イエスがユダの計画を知りつつも その接吻を受けた意味を教えてください。</p>	<p>3 イエス、最高法院で有罪判決を受ける</p> <p>ルカの福音書 22章 66～71節 「夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まった。そして、イエスを最高法院につ連れ出して、『お前がメシヤなら、そうだと言うがよい』と言った。」(66-67)</p> <p>神よ 皮肉なことに、祭司長や律法学者たちは 主イエスをメシヤ、すなわちキリスト、救い主であるとわかっていたのです。しかし主は「あなたたちは決して信じないだろう」と言いました。信じる者にならせてください。</p>
<p>4 イエス、ペテロに否まれる</p> <p>マタイの福音書 26章 69～75節 「ペテロは呪いの言葉さえ口にしなから『そんな人は知らない』と誓い始めた。するとすぐ、鶏が鳴いた。」(74)</p> <p>神よ ペテロが3度も主イエスを否みました。主の仲間と知られ、主と同じ目に遭うことは どんなに恐ろしいことだったでしょう。でも私は、主にお従いする生涯をまっとうしたいです。「恐れるな」と私に語り続けてください。</p>	<p>5 イエス、ポンティオ・ピラトに裁かれる</p> <p>マルコの福音書 15章 1～5, 15節 「ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。」(15)</p> <p>神よ ピラトはローマ帝国のユダヤ総督でした。主イエスの死刑が誤りと気づきながらも 民衆の声に押されてしまいました。私は、その時々、あなたに問いながら 何が正しいかを判断し 自分の責任によって実行できますように。</p>	<p>6 イエス、むち打たれ、茨の冠をかぶせられる</p> <p>ヨハネの福音書 19章 1～3節 「兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、そばにやって来ては、『ユダ人の王、万歳』と言って、平手で打った。」(2～3)</p> <p>神よ 愛するイエスが苦しんでいます。私はこの場面のどこにいますでしょうか。兵子ではないにしても、近くで見えぬふりをしている一人かもしれません。暴力に苦しむ人のことを思わせてください。</p>
<p>7 イエス、十字架を背負う</p> <p>ヨハネの福音書 19章 6, 15～17節 「イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる『されこうべの場所』、すなわち、ヘブライ語でゴルゴダという所へ向かわれた。」 神よ 民衆は我を忘れたように「殺せ、殺せ。」と叫び立てています。つい数日前には賛美によって エルサレムにお迎えした方を。この罪を背負って歩み行く主のお姿を 私心に刻んでください。</p>	<p>8 イエス、キレネ人シモンに助けられる</p> <p>マルコの福音書 15章 21節 「シモンというキレネ人が、田舎から出てきて通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。」 神よ キレネ人シモンは、まったく偶然のように 主イエスに出会い、主の十字架を担ぎ 主をお助けすることができました。あなたはずっと、主と重荷を分かち合い 主と共に働く仲間を求めていると信じます。私もその仲間に加えてください。</p>	<p>9 イエス、エルサレムの女性たちに出会う</p> <p>ルカの福音書 23章 27～31節 「イエスは婦人の方を振り向いて言われた。『エレサレムの娘たち、わたしのために泣くな。むしろ、自分と自分の子どもたちのために泣け。』」 神よ 主イエスは、十字架の出来事の後にもっと苦しいことが起こると 女性たちに予告されました。私たちも今、その苦しみのさなかにあり 涙していますが いつも主の伴いを信じられますように。</p>
<p>10 イエス、十字架につけられる</p> <p>ルカの福音書 23章 33～34節 「そのとき、イエスは言われた。『父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです。』」(34)</p> <p>神よ 主イエスが十字架の苦しみの中で「彼らをお赦しください」と祈っています。この主の赦しをいただいて 罪ある私が今も生かされています。赦された者として、今度は私が赦す。その覚悟と強さをお与えください。</p>	<p>11 イエス、犯罪人に神の国を約束する</p> <p>ルカの福音書 23章 39～43節 「するとイエスは、『はっきり言うておくが、あなたは今日私と一緒に樂園にいる』と言われた。」(43)</p> <p>神よ 主イエスが、苦しむ犯罪人を「あなた」と呼び「今日わたしと一緒に樂園にいる」とおっしゃいました。何という慰めでしょう。苦しみのさなかの「今日」であっても 主がともにあれば、そこは樂園です。</p>	<p>12 イエス、母と愛する弟子に語りかける</p> <p>ヨハネの福音書 19章 25～27節 「母に、『婦人よ、御覧なさい。あなたの子です。』と言われた。それから弟子に言われた。『見なさい。あなたの母です。』」 神よ 教会は、あなたによって結び合わされた家族だと 教えられてきました。今、十字架の主イエスが私たちを 結んでくださっています。私たちは罪人ですが、赦された罪人です。互いに赦し合う家族にならせてください。</p>
<p>13 イエス、十字架の上で息を引き取る</p> <p>ルカの福音書 23章 44～46節 「イエスは大声で叫ばれた。『父よ。私の霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた。」(46)</p> <p>神よ イエスさまが大声で叫び、息を吐き出して 亡くなったと記されています。私の息さえも、あなたからの預かりもの。最後にすべてお返しして、すべてをゆだねてあなたのもとに帰っていきます。その日まで私をお導きください。</p>	<p>14 イエス、墓に納められる</p> <p>マタイの福音書 27章 57～60節 「ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩に掘った自分の新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。」(59～60)</p> <p>神よ 主イエスのご遺体を丁寧に扱ったヨセフは 自覚しないまま 主のよみがえりの備えをしました。私も目の前の働きを丁寧にこなすことによって あなたに用いて頂くのだと信じます。</p>	